

# 息長古墳群

## 塚の越古墳

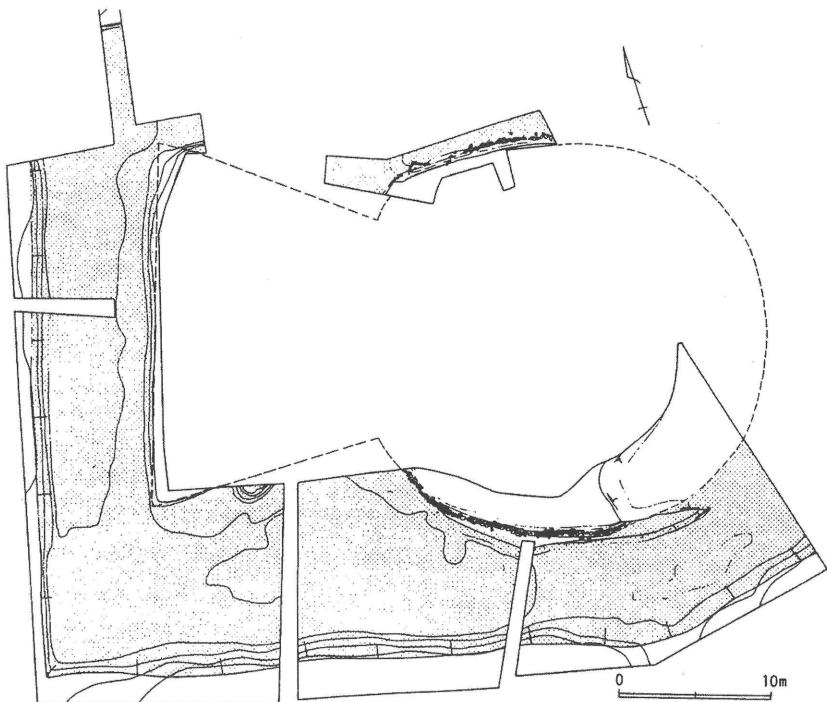
### 狐塚5号墳

塚の越古墳は平地に立地する後期前方後円墳です。東西方向に主軸があり、東が後円部、西が前方部で全長約46mを測ります。すでに墳丘の大半ではなく、周縁部の発掘調査では、水田の下から周濠が見つかり、古墳を飾っていた家形埴輪・人物埴輪・馬形埴輪・鶴形埴輪などが出土地しました。また、墳丘裾部には石見型埴輪が回っていたようです。

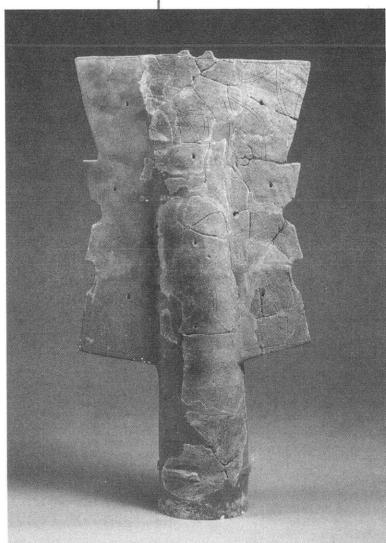
すでに消滅していますが、平野部に埋没していた狐塚5号墳の発掘調査では、周濠内から鳥形木製品が出土し、造り出し部からは家形埴輪・盾形埴輪・鞠形埴輪・太刀形埴輪・蓋形埴輪・人物埴輪・鶴形埴輪など豊富な埴輪が出土しました。木製と土製の両方の埴輪を備えていたようです。造り出しをもつ全長30mの帆立貝形古墳です。



狐塚5号墳出土埴輪



塚の越古墳

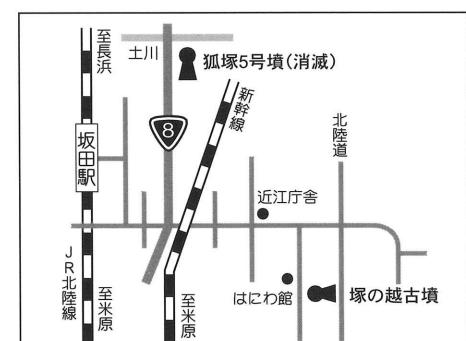
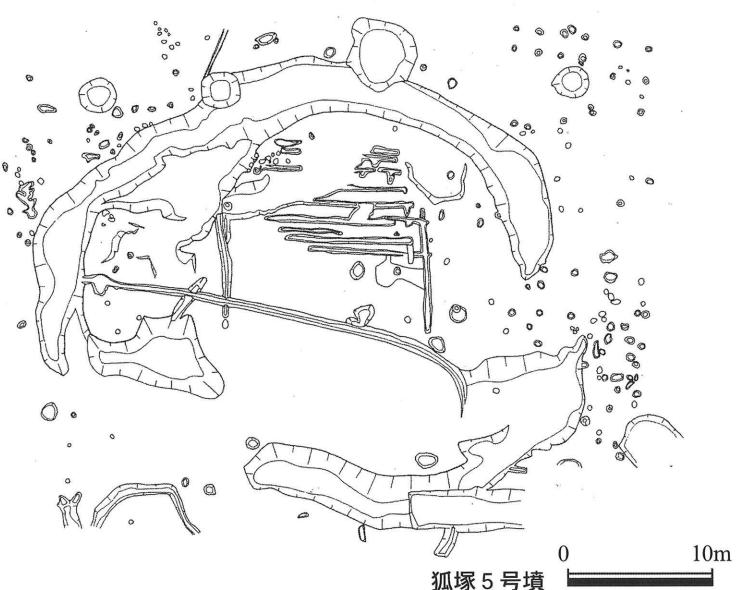


石見型埴輪(左)は、奈良県三宅町石見遺跡出土の資料から設定されたもので、全国で約50前後の出土事例が知られていますが、滋賀県では、息長古墳群の山津照神社古墳と塚の越古墳でしか出土していません。守山市の服部遺跡や野洲市の林ノ腰古墳からは、木製のものが、福岡県岩戸山古墳では石製のものが出土しています。また、三重県松阪市宝塚1号墳では、石見型埴輪を甲板に立てた船形埴輪が出土しました。これらのことから、これまで盾の一種と考えられてきましたが、玉杖の頭飾りを模した威儀具として理解されています。5世紀後半には、大和政権にかかる古墳にのみ立てられましたが、6世紀に入ると周辺部の近江や尾張など繼体天皇と関わる地域に分布を広げておらず、注目されています。



画文帶神獸鏡

かつて、この鏡とともに、勾玉や馬具または甲冑とみられる鉄製品が出土しています。



塚の越古墳・狐塚5号墳

■ 所在地 滋賀県米原市新庄・高溝  
■ アクセス 『塚の越古墳』JR北陸線坂田駅下車。  
徒歩約20分で「近江はにわ館」へ。  
古墳は、はにわ館の前方。

**米原市教育委員会**

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106

平成20年度 埋蔵文化財活用事業